

国際歯科医療安全機構

感染症禍で重要性増す

学術大会で歯科の役割考える

国際歯科医療安全機構（瀬戸皖一理事長）

はこのほど、岡山大学大学院口腔顎顔面外科学分野の主管で、第3

SARS-COV-2の感染様式



日本歯科医師会：新たな感染症を踏まえた歯科診療ガイドライン、2020年6月

「口腔が最大の感染現場である」と説いた瀬戸氏の発表スライド

回総会・学術大会をウェブ配信で開いた。昨年春に開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染症の影響で2度の延期を経ての実施となった。

シンポジウム「新型コロナウイルス感染症 対して歯科医はどう対応すべきか？」では、西山謹吾氏（高知大学医学部災害・救急医療学教授）が新型コロナウイルス感染症の引き起こす「3つの感染症」として、第1に

ウイルスそのものによる感染症、第2に心理的感染症、第3に不安や恐怖が「嫌悪・差別・偏見」を生みだすことについて触れ、災害関連死を防ぐためには正しい医学的知識をもって避難所でも正しく対応することが重要になると強調した。

理事長の瀬戸氏は、新型コロナウイルス感染症は「口腔が最大の感染現場であるとの認識」のもと、協力関係にある歯科医学関連学会との横断的な相互連携によるCOVID-19対策の研究開発の推進を図るなど、同機構の取り組みや展望を提示。歯科の卒前教育の

「井の中の蛙」的考えから脱却し、大学における感染対策患者安全講座の創設を提唱した。

同機構執行役員の北村豊氏（上高井郡小布施町・信州口腔インプラントセンター）は、「感染現場の最前線に

このほか、4人のシンポジストが講演し、歯科口腔外科診療におけるチェアアースイドエアゾール飛沫対策や、小規模クリニックでの迅速・正確なスクリーニング検査法などを紹介している」と話している。